

国際交流員ダニエルの

KANGA KOURYUU

カンガ交流



やってみよう！世界の遊び

皆さんは子どものころ、何の遊びを楽しんでいましたか。私は、ビー玉を使うゲームや「Tag (タグ)」（鬼ごっこ）、なわとびなどが好きでした。

子どもたちにとってこのような遊びは大切に、体を動かして体力を付けられるのはもちろん、友達とのチームワークやコミュニケーション能力を高めることができます。さらに、遊びを楽しむことでストレスの解消にもつながります。

今回は日本でもおなじみの2つの遊びについて、海外のバージョンやルールを紹介します。どうぞ楽しんで読んでくださいね。

バリエーション豊富な「鬼ごっこ」

「鬼ごっこ」や「タグ」、「ティグ」などの名前知られているこの遊びは、多くの国の子どもたちに昔から愛されています。皆さんがご存じのとおり、鬼ごっこのルールは1人が「鬼」になり、ほかの子は捕まると次の鬼になってしまうため、捕まらないように逃げるといったものです。



「タグ」や「ティグ」も鬼ごっこと同じルールですが、鬼のことを「It (イット)」と呼び、逃げる子をタッチするときに「You're it! (ヨアー・イット!)」（次の鬼はあなたね!）と言います。

ほかにも「鬼」が病人の設定で、タッチして病気をうつすという遊びもあり、鬼以外の子は、金属や木材などに触れることで一時的に病気を回避できるというルールもあります。また、鬼はハンディキャップ（不利な条件）をつけることもあり、「しゃがみながらカエルのようにピョンピョンと動かなければならない」というものもあります。

このように鬼ごっこは遊ばれる国や地域によってバリエーションがさまざまですが、日本でもおなじみの手つなぎ鬼(英: Chain tag)や凍り鬼(英: Freeze tag)は海外でも遊ばれています。

オージー・スラング・タイム

オーストラリアのスラングを学ぼう



"Footy"

読み方 「フッティー」

意味 「サッカーやラグビーなどのスポーツ」

「フッティー」には複数の意味があり、イギリスではサッカーを意味しますが、オーストラリアではラグビーのことを表し、「ラグビー・リーグ」や「ラグビー・ユニオン」、「オーストラリア・フットボール・リーグ (AFL)」などのすべてを「フッティー」と呼びます。

また、オーストラリア国内でも地域によって意味に違いがあり、北部ではラグビー・リーグのことを意味し、南部では AFL やボールのことを意味していることもあります。

インドネシアの風変わりな「じゃんけん」

鬼ごっこと同じように、「じゃんけん」もたくさんの子どもたちに親しまれています。ほとんどの国では日本と同じように「グー (英: Rock)」、「チョキ (英: Scissors)」、「パー (英: Paper)」の3種類の手の形で勝敗を決めます。

しかし、インドネシアのじゃんけんは「Suwit(スイー）」と呼び、グー、チョキ、パーではなく、「オラン (ヒト: 人差し指)」、「スムット (アリ: 小指)」、「ガジャ (ゾウ: 親指)」を出します。「ガジャ (ゾウ)」は「オラン (ヒト)」に勝ち (ヒトよりも大きくて強いから)、「オラン (ヒト)」は「スムット (アリ)」に勝ち (足で踏めるから)、「スムット (アリ)」は「ガジャ (ゾウ)」に勝つ (ゾウの耳に入れるから) というルールです。

「Suwit(スイー)」のサインを覚えるコツを教えます。「オラン (ヒト)」のサインは人差し指で、「スムット (アリ)」のサインは一番小さな小指です。覚えやすいですね。最後に「ガジャ (ゾウ)」のサインは親指ですが、親指のことを「ゾウ (ウ) ヤ指」と言うようにしたら、「ガジャ (ゾウ)」のサインが忘れにくくなるかもしれませんね。

皆さんいかがだったでしょうか。この機会に、世界の鬼ごっこやじゃんけんを遊んでもらえたらうれしいです。